

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月7日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4677100119号		
法人名	有限会社 ジェーケイエル		
事業所名	グループホーム ねむの樹		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 串良町 有里 6284番地 1		
	(電話) 0994-62-8030		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月2日	評価確定日	平成21年7月12日

【情報提供票より】 (21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 11人 非常勤 4人 常勤換算	13.4人

(2) 建物概要

建物構造	1号棟 (鉄筋木造) 造り	2号棟 (木造) 造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	5000~12000 円	その他の経費(月額)	250 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	850 円	

(4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	14名	男性 6名	女性 8名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢	平均 79.4歳	最低 61歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青仁会池田病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園の集落の中に立地しているホームである。ホームの居住空間は木のぬくもりを感じる民家造りであり、入居者は静かにのんびりと日々を過ごしている。家賃や食費の利用料を低料金に設定し、快適に過ごして頂けるよう努力をしている。日常的に近隣の生活音や暮らしぶりに触れる機会は少ないが、周辺地域の人々との触れあいの場として物産館を開店しており、野菜類の販売や食堂があり、地域の人々との交流の場となっている。また、婦人会・高校生・保育園児のボランティアや地域行事への参加など積極的な交流により家族等や地域の人々との信頼関係を深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 地域の中でその人らしく暮らしつつける事を支えていく理念を作成しており、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 評価の意義をふまえて、各ユニット毎に評価に取り組み、職員の意見を管理者が集約してる。地域密着型サービスの充実を具体的な改善課題として取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 会議は定期的開催されている。ホーム周辺の環境整備や散歩途中の休憩場の必要性など意見が出されて、話し合いがなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 相談窓口を明記したり、意見箱を設けている。意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。ホーム入口の看板の修復などの要望に即対応し、家族等に満足が得られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 夏祭り・棒踊り等の地域行事に参加している。公民館にて住民と食事会をしたり、婦人会・高校生・保育園児が三味線・踊り・和太鼓の演奏で訪れるなど多くの人達との交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくという新しいグループホームの位置づけに即した理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やパンフレットに掲示している。職員は日々の支援の中で確認し合い共有に努めている。新人職員には理念を十分に伝え日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏まつりや棒踊りなどの地域行事に参加している。公民館にて住民の方々と食事会をしたり、婦人会・高校生・保育園児が見学や三味線・踊り・和太鼓で訪れるなど、多くの人達との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をふまえて、各ユニット毎に評価に取り組み職員の意見を管理者が集約している。地域密着型サービスの充実を具体的な改善課題として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。ホーム周辺の環境整備や散歩途中の休憩場の必要性など意見が出され、話し合いがされている。		会議の報告は全体会議で報告されているが出された意見などの取り組み・過程・結果報告を記録に残し、サービスの向上に活かす取り組みが求められる。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告や生活保護受給者の利用状況等、相談しながら協力関係を築いている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便り、年4回の家族会や来訪時に日々の暮らしぶりや行事予定・運営推進会議・職員異動等報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を明記したり、意見箱を設けている。意見を出しやすい雰囲気作りに心がけている。ホーム入口の看板の修復などの要望に即対応し、家族等に満足が得られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者・家族等との馴染みの関係を重要視したケアを心がけているが、やむを得ない異動の場合には、職員にホームの理念や考え方をしっかり指導し、不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に参加したり資格取得者も数名いるが、職員全体に応じた段階的・計画的な研修の機会の確保がなされていない。	○	職員の質の確保、向上に向けた育成のため、職員の段階に応じた年間計画を作成し、研修機会を確保する取り組みが求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム・ホーム協議会で行われる勉強会に参加している。他グループホームと見学や交流等も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>(</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の本人・家族に面談し、生活状態、思いや不安を十分に聞いている。また、馴染める様に見学や体験入所をしてもらい、信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中でその人の特技を発見したり、職員は入居者の礼儀正しい姿に感動したり、感謝の言葉や笑顔に励まされながら日々を共にしている。		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりを理解し、本人の言動や表情・サインから思いや意向を把握している。職員間の情報交換に努め自由に表現、自己決定できる環境作りに努めている。		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・主治医の意見・職員の気づきや意見を反映した、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと個別のケアの実績結果や気づきを記録して情報を共有している。入居者の状態変化や入退院時にモニタリングを行い、評価結果の見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の状況や要望に応じて病院受診や墓参り・自宅訪問など必要な支援を柔軟に行っている。医療連携体制もできている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望しているかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制ができており、重度化や終末期に対して家族・医師・看護師・職員等を交えて話し合い共有している。ホームが支援できる指針が定められ、家族等の同意書もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・睡眠・入浴・レクリエーション・散歩など、一人ひとりの心身の状態に合わせて本人のペースで生活できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好希望を聞いて献立を作成している。菜園の収穫・下ごしらえ等できる事してもらい、職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日はユニット毎に決めているが、一人ひとりの入浴希望に応じられるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の畑仕事・台所仕事・ぬり絵・などの趣味やできる事に役割を持ってもらっている。また、カラオケやボール遊び・自宅訪問・外食・公園等に出かけ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物・公園・外食に出かけている。車椅子利用の入居者も出かけられるよう外出の機会作りを工夫し、閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、勉強会をしている。プライバシーに配慮しながら見守りに努めており、入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による昼・夜間想定避難訓練を行っている。また自主防災訓練はホーム関係者で行い、災害時の備蓄もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を管理・記録し一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせて食事形態を取っている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく暖かみのある木目調でできっており、ホールの壁には利用者と一緒に作った行事毎のぬり絵やはり絵が貼ってある。快い音楽が流れ、タタミ部屋やソファ等が配置され、居心地良く過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの衣装ケースや時計・ソファなどの物品が持ち込まれ、家族や本人の写真等を飾り、個性的な居室作りになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。